一般社団法人

ぐるーん

親と離れて暮らす、
一番弱く、小さな子ども達に
ぬくもりを届ける

ごあいさつ

はじめまして。
パンフレットを手に取ってくださってありがとうございます。
代表の河本美津子です。
私がぐるーんを知ったのは2012年でした。自分にできる形で施設の子ども達と関わりたいと思っていた時、インターネットの交流サイトで見つけ「これだ！」と思える運命の出会いでした。

ぐるーんとは

親と暮らせない子ども達に、金銭や物資ではなく人の温かさを届けます。サポーターと呼ばれる登録会員が、乳児院や児童養護施設で暮らす子ども達を抱きしめる活動を続けています。施設の職員さんが「本当は子ども達を抱っこしたいけれど、人数が多くて無理。」と言われるのを聞いたことがあります。子ども達は心から愛おしい存在だから、愛をこめて抱きしめます。その時、抱っこしているはずの私達も抱きしめられていて、与えるものより与えられるものの方が多いことに気づかせてくれる、それがぐるーんです。

子ども達に必要なものは？

「抱っこー！」と言ってくる子ども達が欲しいものを考えると、例えばその言葉で表される『心からの安心』や『無償の愛』でしょうか。それは産みの親でなくても与えられるし、血の繋がりがなくても家族になることができます。特別養子縁組制度や里親制度による新しい家族の形をより多くの人に知ってもらい、その子を応援する人が1人でも増えますように。

私達にできること

ぐるーんの活動は、

①乳児院や児童養護施設での定期的な抱っこ

②養子縁組制度や里親制度への理解を深めるための情報発信

③立場を超えた子ども達のふれあいイベント

に集約されます。そのために何ができるでしょうか？養親や里親になったサポーターもいます。抱っこには行けないからとスポンサーになったり、イベントに参加したり。愛のベビースタイプロジェクトやチャリティーグッズプロジェクト、アカペラチームやソーイングチームも生まれました。これからも新しい活動が始まります。サポーター1人ひとりが自分にできることを考えた時、一方的な支援ではなくお互いが愛で繋がる、それが私達にできることだと思います。

ぐるーん創立者のこと

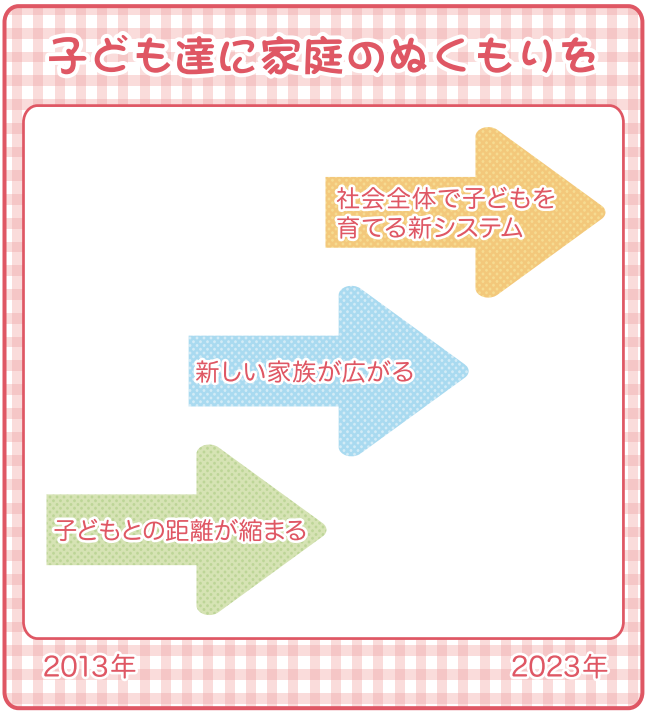
ぐるーんは2011年に神奈川県でスタートしました。創立者である有尾美香子は、ぐるーんプロジェクトを立ち上げ、子ども達とサポーターを照らす太陽のような存在でした。しかし、2015年2月急逝。生みの親を失った悲しみを乗り越え、彼女の思いを受け止めて、ぐるーんはこれからも成長し活動を続けます。天国から見守っていてくれることを信じて。

ぐるーんのミッション

“親を必要とする子ども” と
“子どもが欲しい大人” との
距離を近づけ、
新しい “幸せな家族”
をひとつでも多く誕生させること

活動内容とロードマップ

ぐるーんは、乳児院や児童養護施設で暮らす子ども達を抱きしめる活動や、施設の子ども、里子、養子、一般家庭の子ども達が垣根なくふれあう交流イベントの開催、そしてインターネット上での情報発信を続けながら里子・養子候補の子ども達と里親・養親候補者の距離を縮める活動をしてきました。現在では、交流イベントや施設で抱っこをするサポーターの中から、里親を希望される方が生まれています。
ぐるーんの活動を通じて里親制度や養子縁組制度についての理解を深めてもらい、産みの親が育てられない子ども達を施設ではなく家庭で育てることができる、そんなあたたかな社会の実現を目指しています。



活動の紹介

抱っこ

2015年12月現在、サポーター登録者は1,060人。全国的な広がりを見せています。定期的に地元の施設で子ども達を抱っこする活動を行っています。

「家族の事情や経済的理由で親と一緒に暮らせない乳児らを『抱っこ』する活動にボランティア団体『ぐるーん岡山』が取り組んでいる。
人のぬくもりを直接伝え、『決して１人ではない』と心に訴えかける独自のスキンシップ。メンバーたちは『“親子の絆”を感じ取り、健やかに育ってくれれば』と期待をこめる。
（中略）
同乳児院には現在２ヶ月～２歳の男女約30人が暮らす。職員48人が３交代で勤務するが、平岡文恵院長は『泣く子、寂しそうな子がいても全てを構ってあげられない。
その引け目を河本さんたちが埋めてくれている』と感じている。（以下略）」
（山陽新聞 掲載）

親と暮らせない乳幼児

「抱っこ」で安心感

岡山の団体 施設訪れボランティア

家族の事情や経済的理由で親と一緒に暮らせない乳児らを「抱っこ」する活動にボランティア団体「ぐるーん岡山（事務局・高山市）」が取り組んでいる。人のぬくもりを直接伝え、「決して一人ではない」と心に訴えかける独自のスキンシップ。メンバーたちは「“親子の絆”を感じ取り、健やかに育ってくれれば」と期待をこめる。

今月初め、同市北区笹畷の旭川乳児院。ぐるーん岡山代表の河本美津子さん（58）＝同市北区高田本町＝が男児の小さな体をぎゅっと抱き締めると、応えるようにふくよかな両手が背中に回った。「心がつながる瞬間」と河本さん。げっぷをさせ、目を合わせたりすると泣きやんだ。

同乳児院には現在、2カ月～2歳の男女約30人が暮らす。職員48人が3交代で勤務するが、平岡文恵院長は「泣く子、寂しそうな子がいても全てを構ってあげられない。その引け目を河本さんたちが埋めてくれている」と感じている。

「ぐるーん」は2011年、本部が横浜市に発足。活動の輪は全国へ広がり、イギリスにも飛び、イベントなどを通じて、施設訪問のボランティアを募っている。

メンバーは主婦や会社員の30～60代の女性17人。同乳児院や赤ちゃん訪問、週1回、3時間程度滞在して抱っこ活動を行う。抱き締めて童謡を歌って聞かせたり、安心からか腕の中で眠る子もいるという。

今秋、活動を支援するため、施設訪問のほか、施設訪問の子どもたちの父親イベントなどに、施設訪問の子どもも横浜市中、河本さんは「家にいたらただ目の前の抱っこ差出しで大人に対する安心感、信頼感が少しでも生まれればと願っている」と話している。

活動を援じてメンバーを募っている。申し込みはぐるーんのホームページ（http://www.ecn.jp/）へ。（竹矢雅樹）

子どもを抱っこするぐるーん岡山
代表の河本さん （2013年9月 山陽新聞）

「ぐずっていても抱き上げるとすっと泣き止む赤ちゃん。こちらにすべてを委ねているやわらかな存在を抱いていると、とても安らかな気持ちになれます。」（月刊のんびる 掲載）

記事協力：山陽新聞社、パルシステム

イベント

施設の子ども達や里子、一般の子ども達が交流。家族の枠を超えて大人も一緒に遊ぶイベントを定期的に主催しています。

2015年 サバイバルイベント

船に乗って島に渡り、与えられたミッションをグループで力を合わせて遂行します。大きな自然の中で子ども達はすぐに仲良し。イカダが完成して沖に漕ぎ出した時は歓声が上がりました。動いた後で浜で食べるカレーやバーベキューは最高！参加した大人達もたくさんの子ども達と関わることができました。

2015年 トトロイベント

町の中にこんな場所が残っていたなんて！昭和初期にタイムスリップ。薪でご飯を炊いたりお風呂をわかしたり、竹でおもちゃを作ったり。大人にとっては懐かしく子どもにとっては初めての体験でした。
普段とは違う環境の中で１日を一緒に過ごし、別れがたい思いでそれぞれの場所に帰りました。

サポーター

定期的に乳児院で抱っこをしたり、一緒に遊んだり、洗濯などのお手伝いをしています。
定期的な抱っこに参加できないサポーターも、それぞれのスキルを活かして様々な方法でぐるーん活動をしています。
応募方法は巻末の「ぐるーんサポーター」をご覧ください。

「愛のベビースタイプロジェクト」

愛媛県のタオルメーカー IKEUCHI ORGANIC 様からご提供いただいたタオルを、ベビースタイに手作りして乳児院に届けます。全国各地で行われています。

「アカペラチーム ぐるーんエンジェル」

歌の好きなサポーターが集まりました。
イベントの時には歌でも愛を届けます。

「チャリティーグッズプロジェクト」

ぐるーんグッズを手作りし、ぐるーんのことを知ってもらうと共に、売り上げの一部をぐるーんに寄付してくださるサポーターさんも。

スポンサー

「定期的に抱っこには行けないし、イベントに参加するのも難しい。」「ぐるーんの趣旨に賛同している。できることで応援したい。」と言われる方には、スポンサーとして金銭的な応援をしていただいています。もちろん「抱っこに行きつつスポンサーにも！」というサポーターも大歓迎。
スポンサーには、オフィシャルスポンサーとパーソナルスポンサーがあり、それぞれの金額で温かい応援が続いています。

ぐるーんの活動の継続にはスポンサー会員様のご協力が不可欠です。親と離れて暮らす子ども達の未来をいっしょに応援していただけませんか？
募集要項は巻末の「ぐるーんスポンサー」をご覧ください。

私も今は子育て真っ最中。
自分の子どもが幸せに生きていくためにも、他の子ども達も幸せでいてもらいたい。
ぐるーんの活動は、私の想いを形にしてくれる、素晴らしいものでした。何より、私でも出来ることで、これからもずっと続けられることが嬉しかったです。
今はまだ抱っこには行けませんが、出来ることからはじめたいと思います。
日々抱っこ力を磨いて、子ども達に会える日を思いながら…。

どこで育ったとか、
どんな風に育ったとか、
今を生きるぼくらには関係ない

ストーリー紹介

ぐるーんの活動では多くのストーリーが生まれます。ここではごく一部ですがご紹介します。ぐるーんのWeb サイトや Facebook ページにはさらに多くのストーリーを掲載していますので、ぜひご覧ください。

乳児院にて

乳児院①

大きな１歳、サマンサ

乳児院の子ども達にとってもご飯はうれしい時間。
「ご飯だよ～！」
という職員さんのかけ声に、みんな
「わーい！」
と喜んで走り出す。
そんな中、膝の上から動かない女の子が一人....
先週来たばかりのサマンサ（1歳）。
乳児院の中では飛び抜けて大きいサマンサ。
「サマンサ、ご飯よ。」
と職員さんが話しかけても
「いらない～！！！」
と、顔をくしゃくしゃにして涙ぽろぽろ私にしがみついている。身体は大きくてもまだ1歳。
「おかあさんと離れて心細いよね....。」
私もぎゅっとサマンサのこと抱きしめました。

きよみちゃん

４ヶ月のきよみちゃんは、喘息持ちで、痰が絡みやすい小さい赤ちゃん。
少しでも楽にしたいから、マメに鼻水を拭いて、ゆっくりゆっくりミルクを飲ませてあげて...
飲み終わったのは２時間後。
「よく頑張ったね！みんなミルク飲めたね！」
きよみちゃんはつぶらな瞳でじっと私を見つめてくれました。

その様子を見た保育士さんが一言。
「きよみちゃんは、普段のこの時間は他の子の泣き声がかき消されるくらい泣き叫ぶんです。
眠くてお腹すいてるのに、ミルクがうまく飲めなくて辛いんでしょうね。でも、今日はすごく静かでした。抱っこされて安心していたんですね…。」

そうなんだ.... こんなにお利口さんなのに。
小さい身体でそんなに大きい声を出してがんばってたのね。

明日も穏やかなきよみちゃんでいられますように。

ぐるーんでは親を必要とする子どもと子どもが欲しい大人との距離を近づけるべく、出会いの場作りに力を入れています。
次にご紹介するのはそうして生まれた２組の里子・里親のストーリーです。

里子のななこちゃん

ななこちゃん①

お母さん代わりのような人

ななこちゃんのお友達とすれちがった時のこと。
「ななこちゃん、この人誰？」
「はじめまして、ななこちゃんの友達よ」
と答えたわたし。

それを聞いたななこちゃんが一言。

「お友達じゃないよ、
お母さんの代わりのような人だよ。」

心がきゅーっとして、じーんとして、
それからあたたかくなったよ。

ありがとう、ななこちゃん。

ななこのファーストお泊り

里子のななこちゃんのお泊りは、我が家総勢6名（おとうさん、おかあさん、おにいちゃん、おねえちゃん2人、おじいちゃん）の大歓迎を受けて楽しくはじまりました。

得意の絵画の腕でななこちゃんの似顔絵を描くおじいちゃん。ちょっと優しい言葉で話すおにいちゃんを、ななこちゃんったら「おかまくん」と命名（笑）
おかまごっこで遊ぶ、不思議なふたり。

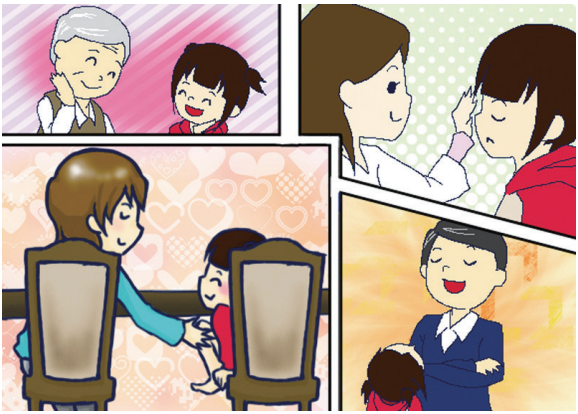
お姉ちゃん2人にはお化粧をしてもらって、おとうさんは得意の登山の話を披露。

小さなお姫様がかわいくてしかたがない私たち家族なのです。お食事のとき、わざとちょっとぐたぐたポーズで食べるななこちゃん。

私は手と足を優しく掴んで
「はい、食べる時はこうでしょ」
ななこちゃん、ちょっとびっくりした顔をしてちゃんと姿勢を正したかと思うとにんまり笑いながら、またぐたぐたポーズ。

なおして、正して、またぐたぐたの繰り返しがななこちゃんにはうれしいみたい。

これからもね、いくらでも教えてあげますよ。ななこちゃんが素敵なレディに成長するのを見届けるのが、私の新しい楽しみなんですもの！



お母さんが会いにきてくれない

児童相談所の職員の葛西さん、ななこが生活する児童養護施設の職員緒方さん､そして里親(週末家庭)の私の３人で打ち合わせ。

１年を振り返って、ななこがずいぶんと落ち着いてきたという点は、共通した認識。

施設に預けられた時、ななこのお母さんは言いました。
「いつか迎えに行くからね。」
それなのに、一度も会いにこないお母さん．．．。

葛西さんによると、ななこの母親とは相変わらず連絡が取れない、母親の住んでいたアパートを訪問したら、若い男性が出てきて、手紙を渡したものの、その返事は来ない．．そんな話がありました。

これまで、ななこの気持ちを想い、
「お母さんは心の病気で会いたくても会えない。」と私たちは一致してななこに説明してきました。

でも、ななこは賢い子。
どうにも合点がいかないと粘るので、葛西さんは本当のことを話しました。

ななこは真実を聞いた後も泣いたり、取り乱したりすることなく、ずっといつものななこでした。
でも、児童養護施設の高林お兄さんとゆっくり話をした夜に、ななこは涙を流して泣いていたそうです。

ななこの授業参観

今日は、ななこの授業参観。
1時間目～3時間目まで、図工、算数、懇親会と出席してきました。

私を見つけるなり、" はっ " とした顔をして、後はチラチラ見てはにんまりのななこ。
あ～、来てよかった。

ななこは近視なので、席は1番前。授業にも落ち着いてしっかり取り組んでいました。
たま～に、席を離れて後ろの男の子とふざけそうになっていたけれど、私が目で合図すると、すぐに席に着いて…
クラスの雰囲気ものびのびしていて、ななこは中では落ち着いているように見えました。

「ななこちゃんはとてもお利口なお子さんです。心をこめて、うまく関わる大人がいることは、とても大事ですね。どこにだしても恥ずかしくないよう、またホームを出た後、自活できるよう、家庭体験を沢山させてあげてください」
と愛妻家の担任の先生。

温かい先生と仲良しのお友達に囲まれて、ななこは幸せだなと安心しました。

里子のけんたくん

抱っこ抱っこの日々のはじまり

けんたくん①

乳児院でけんたと会い始めた頃は不安が期待を上回っていた。一緒に食事をしたり、遊んだり、何をしていても私にそっけなく、保育士さんを追いかけ回していたけんた。

乳児院のみんなで海に行った時もそう。私とけんたをできるだけ一緒にしようとしてくれている保育士さんの努力虚しく、けんたは保育士さんを探しては抱っこ、抱っことせがんでいたっけ。
不安と、居心地の悪さと、仕方ないという諦めと、いろんな気持ちを抑えながら、砂で汚れた手足を洗いにけんたと2人で水道を探しに行くことに…。
途中つかれたけんたが、私に抱っこを求めてきてドキドキした。

手足を洗い終えた後もけんたは私から離れようとせず２人だけの時間をしばらく過ごした。他の子が来た時こう言った。

「ダメ！けんたのママだから！」

その日以来、これまで我慢してきた抱っこを取り戻すかのように、抱っこ抱っこのけんたとの生活がスタートした。

小学生になり、以前よりずっと減ったとはいえ、抱っこはまだ続いている。あとどのくらい抱っこをせがまれるのだろう。まだしばらくは続いて欲しい気がする。

けんたくん②

ぼく、どこからきたの？

2 歳で里子として迎えいれたけんた。
4 歳になり、ある雨の日に突然こう言った。

「ママ、僕はどこから来たの？ママのお腹から産まれてきたんだよね？」

私は少しどきどきしながら答えた。

「ママはね、なかなか赤ちゃんが産まれなくて、はやくけんちゃんに逢いたいなって思っていたの。毎日、神様に『けんちゃんに逢わせてください。』ってお願いしていたのね。そうしたら、けんちゃんがパパとママのところに来てくれたのよ。」

けんたは目をまん丸にして叫んだ。

「え～っ！！！
僕、ママのお腹から産まれたんじゃないの？！」

そしてうなだれて小さい肩を落とした。

「僕、ママから産まれたんじゃないんだ…。」

4歳のけんたが自分の出生に関心があること、そして、私から産まれていないという事実を彼なりに衝撃をもって受け止めていることに私は驚いた。
なんと言っていいかわからず見つめるしかない私に、けんたはこう続けた。

「でも、ママは僕のママだよ。ママが一番かわいい。
僕、ママが大好きだもん。」

こうして、私たちは日々親子になっている。

けんたはけんた

けんたの母親になる自信が持てなくて、落ち込んだことは本当に数えきれないほどあった。

けんたが登校中にわがままを言って困らせたときけんたと私の関係を知っているママ友から
「しっかりしつけしてあげてね。」
と言われたときは、自分が母親として未熟だと責められているようでつらかった。

実親の気になる素行についても耳に入り、もしかしたら、けんたにも遺伝しているのではないかと…。
たとえ一瞬でも不安に思ってしまった自分自身をどうしようもなく責めたこともあった。

でも、私はけんたのすべてがいとおしい。
わがまま言って困らせるけんたも、学校の先生に何度も指摘されている落ち着きのないけんたも、学童で覚えた乱暴な言葉をぶつけてくるけんたもすべてが大切なけんただから。

ありがとう、産まれてきてくれて。
ありがとう、私たち夫婦の子どもでいてくれて。

けんたくん④

特別養子縁組を決意して変わったこと

養子縁組をすると決めて準備を始めてから、私の気持ちに変化があったように思う。もちろん、前から「血は繋がらなくても大切な私たち夫婦の子ども」と思ってはいたのだけれど、何かが心の中で変わった。

けんたを引き取って、しかるべきところに「養子縁組をしたい」と相談をしてきた。その度に、「慎重に」と言われてきた。養子縁組を前提に進めても、親子の相性があわずにうまくいかなくなるケースが多々あるのだという。
だから、「慎重に」して、今までの約 5 年の歳月が流れたわけだけど、正直なところ、何をどう「慎重に」したらいいのかわからなかった。

私たち夫婦は、けんたを子どもとして我が家に迎え入れたい。私たちの気持ちはそれだけなのです。

一方で、養子縁組ってどういう意味があるのだろう…とずっと思っていた。手続きは大変なんだけど、それだけで親子のあり方が変わるのかって思っていた。でも実際に決めたら、なんだか安心した。けんたも同じように見える。

私は思う。血のつながりのある親子だって、それぞれいろいろな事情を抱えながら愛情を持って育てている。
私はけんたに障害があったって育てていく。端から見て相性があわなくたって育てていく。わが子なんだから。親の年齢や、親子の性格も、人それぞれちがう。違っていていい。それぞれの家族なんだから。

もう誰に遠慮する必要もないのだ。特別養子縁組を決めてよかった。「慎重に」なんていう言葉に迷うことなく、もっと早くに縁組みをすれば良かった。

私たちの大切なけんた。
これから堂々と共に育っていきたい、親子として。

募集要項

ぐるーんではサポーターとスポンサーを随時募集しています。

ぐるーんサポーター

赤ちゃんや子どもが大好きなみなさん！
親と離れて暮らしている赤ちゃんや子ども達を抱きしめる、あたたかい社会貢献をしませんか？

活動内容と必須要件

●乳児院や児童養護施設で親と離れて暮らす子ども達と、抱っこやスキンシップ遊びを通して温かくふれ合います。
●最低でも月に 2 回以上、1 年間は「抱っこ」を継続できる方。

ご活躍までの流れ

サポーター登録 ▶ 地域リーダーと相談＊ ▶ 施設面談 ▶ 抱っこデビュー

＊サポーターのスキルを生かした抱っこ以外の活動も提案します。

サポーター登録は http://p.tl/evG7 のフォームからお願いいたします。

ぐるーんスポンサー

親と離れて暮らす子ども達の未来をぐるーんといっしょに応援してください。

オフィシャルスポンサー

企業や団体のスポンサー向け。金額は月会費です。

・正会員	50,000 円
・準会員	30,000 円
・サポート会員	10,000 円

スポンサー登録
http://p.tl/LkHy

パーソナルスポンサー

個人のスポンサー向け。金額は月会費です。

・正会員	10,000 円
・準会員	5,000 円
・サポート会員	1,000 円
・ワンコイン会員	500 円
・100 円会員	100 円

スポンサー登録
http://p.tl/afK5

登録の流れ

スポンサー登録 ▶ 書類送付 ▶ 書類返送 ▶ 登録完了

たくさんのご登録お待ちしております。

ぐるーんの詳細が分かるホームページ

ぐるーん　検索

http://www.gruun.org/

ホームページ

Facebook ページ

https://www.facebook.com/gruun.org

FB ページ

お問い合わせ

E-mail:info@gruun.org

住所:〒700-0054

岡山県岡山市北区下伊福西町7-32-309

TEL:086-250-0418

印刷：株式会社 東京文久堂
http://www.tbunqdo.co.jp/

製本：有限会社 日光製本

2016.7 改